



定期考査の勉強が、3年生の受験勉強につながります!!

中間考査に向けて

新学年が始まって、最初の定期考査の時期を迎えました。3年生の1学期の成績は、進路を決めるためにとっても大事なものです。取りこぼしが無いように計画的に勉強をしましょう。また、1年生は、高校での初めての定期考査です。高校での勉強は、中学校時代と進度や量も大きく違っていています。このため、中学校では点数が取れていた生徒が、高校では伸び悩み、成績を下げてしまう場合も見受けられます。最初の定期考査でつまづかない様、勉強にしっかりと取り組みましょう。

○ 中学での定期考査と高校での定期考査では、大きく違うことを理解しよう!!

1年生はようやく学校生活にも慣れてきた面があると思います。中学校時代は授業の中だけで理解できて、定期考査の勉強も特に時間を取らなくても、ある程度の成績を残せた生徒もいると思います。高校と中学校との大きな違いは、勉強しなければならない量が大きく増加し、内容も難しくなっていることです。成績を向上させるためには、“中学校の時とは違い、高校では定期考査や勉強に対しての意識や方法も変えていかなければならない”ということです。まずは、「高校の勉強は、時間が必要である」と理解し、自発的に勉強に対する行動を起こすように心がけることが必要です。

「やる気が起きないから勉強したくない」という生徒もいると思います。勉強のやる気は、勉強をやり始めてから徐々に上がってくるものです。誰かがやる気スイッチを入れてくれるわけでもありません。スイッチを入れるのは当然ながら自分自身です。毎日時間が来たら机に向かう、最初に得意教科を30分勉強するなど、勉強を習慣づける工夫を始めていきましょう。

○ 必ず目標の点数や順位を決めて考査に臨もう!!

目的意識をしっかり持つことで、勉強に対する意識を高めることができ、やる気も維持できます。「勉強することはつまらない」「勉強はいくらやってもできるようにならないもの」と思っている生徒と「やればできるようになる」と思っている生徒では、どちらの方が成績の向上がみられるのかはわかりきっています。「やればできる!」と思えるようになるには、実際に「やったらできた!」という経験を積むことが大事です。小さな目標を設定し、達成することで勉強することの励みにしましょう。

定期考査の勉強において、参考書、インターネット、問題集などを活用し、自ら学び、自ら調べ、自ら解決できるようになると、勉強に対する抵抗も少なくなってきます。早い段階で身につけたい能力の一つです。勉強方法も「ノートを読むだけ」「プリントを音読するだけ」「教科書をうつすだけ」の“覚えることだけを重視した”勉強ではなく、「問題集を解く」の“理解を深める”ことの勉強方法を目指しましょう。問題集を解いて、わからないところが出てきたら参考書を読んだり、ノートを見返したり、プリントを確認したりして理解を深めていきます。問題形式の勉強を通して、できない部分をなくし、できる部分を増やしていきましょう。

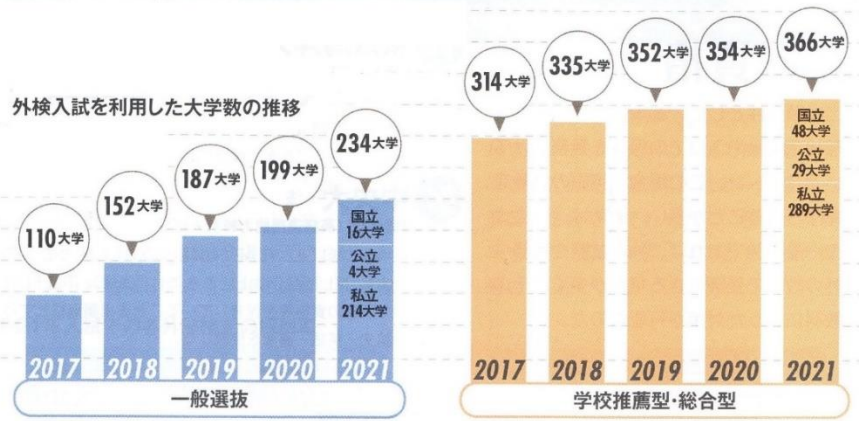
○ 成績を上げるために問題に取り組み、知識の定着を図ろう!!

成績を上げるには、「出題されそうな問題の数」に対して「できるようになった問題の数」がどれだけ増えるかで決まります。「出題されそうな問題の数」とは、定期考査で出題される可能性がある問題を指しています。授業ノートでの板書事項、重要事項等のメモ、例題の解き方を確認しましょう。「できるようになった問題」とは、「出題されそうな問題」のうち、解答や解説を見ずに、自分で解けるようになった問題のことです。「解けるようになった問題」を増やしていくことが、知識の定着と増加につながり、成績の向上につながります。

英語外部検定利用入試について

外検入試とは、受験生の英語力を英語外部検定のスコアで判断する試験を指します。今年から始まった共通テストでは当初、「英語成績提供システム」の導入が予定されていましたが、様々な理由から見送りとなりました。このような中でも、各大学の入試において外検入試を取り入れている大学が増えてきています。

現在の教育改革の中では、「読む・聞く・書く・話す」の4技能のバランスのとれた英語力が求められています。この4技能を判定できる試験として、外部検定が注目されています。



○ 外部検定の利用のされ方

一般選抜では得点換算に約6割の利用、学校推薦型・総合型(旧AO入試)では出願資格に4割を超える利用になっているのが現状です。

1. 出願資格

出願条件として、各大学が指定する級やスコアの保有を義務づけている。私立大の一般選抜などでは英語の試験が免除されることもあります。

2. 得点換算

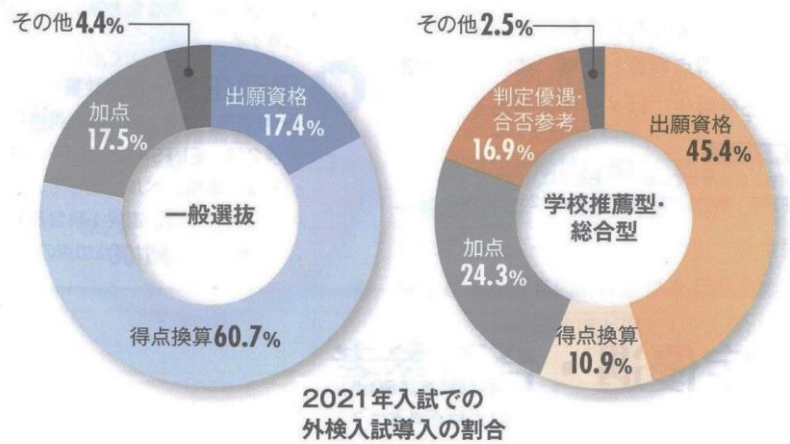
取得している級やスコアによって、共通テストや個別試験の点数に換算される仕組みである。英検準2級を取得していれば、英語の個別試験の70点に換算するなどです。

3. 加点

取得している級やスコアによって、共通テストや個別試験の点数に加点される仕組みである。例えば、英検2級を持っていれば、英語の個別試験の点数に10点をプラスするなどです。

4. 判定優遇・合否参考

総合型の一次試験や最終選考などで出願書類の評価や合否の判定における優遇が得られる。たとえば英検2級以上は合否判定の参考とします。

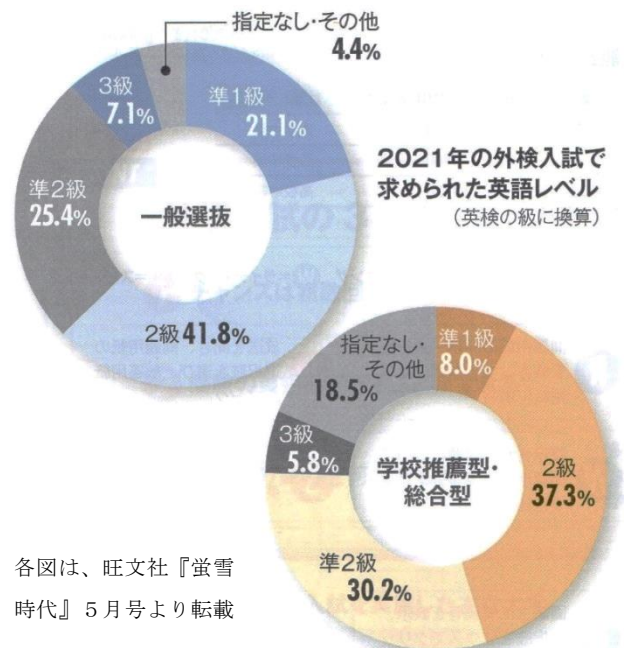


○ 外部検定はどの程度のレベルを取得しておけばよいのか。

多くの大学の入試で利用できる外部検定を利用した方がよいでしょう。一般選抜、学校推薦型および総合型のいずれの入試でも英検、次にGTEC CBTの採用率が高くなっています。取得しておきたいレベルは、英検換算で2級レベルが一つの目安となっています。

一般選抜と推薦型では、一般選抜の方が比較的高い英語レベルが求められています。一方、学校推薦型や総合型では、面接や小論文などを含め多面的な評価を行うため、英語力の基準を一般選抜ほど高くしていないのも実情です。

一般の入試において英語の試験は一発勝負です。しかしながら外部検定は、一年に複数回行われるので、目標の級まで何回かチャレンジできることが、外部検定入試を利用する際のメリットです。



各図は、旺文社『蛍雪時代』5月号より転載